中学１年　国語科　教材別テスト⑧　模範解答・解説

「蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から」／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

教科書本文（現代語訳・脚注・解説をふくむ）は載せていません。**教科書『国語１』の「蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から」のページを開いたまま**解答します。大問二の例文は、著作権の切れた『竹取物語』の古文から短く引用したものです。初めて古典を学ぶ単元なので、**歴史的仮名遣い**と**古語の意味**という「古文を読むための道具」を知識・技能でしっかり固め、思考・判断・表現では**人物の行動から人物像・心情・物語の工夫**を読み取る力をみます。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	歴史的仮名遣い・古語の意味・助動詞「けり」	２点×９＝18点
	三	古典の基礎知識・語句（成立時代・随筆・作者・係り結び・故事成語・同時代の作品）	２点×６＝12点
思考・判断・表現 50点	四	「蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　歴史的仮名遣いを**現代仮名遣いに直す規則**（「は行」→「わ行」、「ゐ・ゑ」→「い・え」、「ぢ・づ」→「じ・ず」）を使えるか。

②　「いと」「あやし」「うつくし」のように、**今とは意味がちがう古語**を区別できるか。

③　『竹取物語』が**平安時代**に作られた作品であることや、古典の基礎知識（随筆・係り結びなど）を理解しているか。

④　くらもちの皇子の**行動（偽物を作らせる・苦労話を語る）**から人物像をとらえ、**うそが露見する展開**を整理できるか。

⑤　「作り話をくわしく語らせたうえで、職人の登場によって一気にくずす」という**物語の工夫**を、自分の言葉で説明できるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	きちょう	⑪	有名
②	ほうせき	⑫	航海
③	しょくぎょう	⑬	疑う
④	くろう	⑭	材料
⑤	いつわ（る）	⑮	準備
⑥	なんだい	⑯	正直
⑦	きぞく	⑰	謝る
⑧	せいきゅう	⑱	珍しい
⑨	おとず（れる）	⑲	伝説
⑩	おどろ（く）	⑳	仕える

小計　20点

【注意したい字】

①「貴重」と⑦「貴族」は同じ「貴」。「喜」と書かないこと。②「宝石」は「ほうせき」。「たからいし」は誤り。⑤「偽る」は送りがなまで必要。「偽」のつくりは「為」。⑧「請求」の「請」はごんべん。「清」「晴」と混同しやすい。⑨⑩も送りがなが必要（「訪ずれる」「驚ろく」は×）。⑬「疑う」、⑰「謝る」、⑱「珍しい」、⑳「仕える」は**送りがなまで書けて正解**。⑮「準備」の「準」は「淮」＋「十」。「順備」は誤り。⑱「珍しい」は「めずらしい」。「珍らしい」と送らない。⑳は「主君に**つかえる**」＝そばにいて仕事をする意味なので「**仕える**」。「使える」は×。

二　歴史的仮名遣い・古語　（２点× ９ ＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**いう**	語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と読む。「いふ」→「**いう**」。「ゆう」と書くのは誤り（**仮名遣いを直す**問題なので、発音どおりではなく一字ずつ置きかえる）。
(2)	**おかし**	語頭の「を」は「お」に直す。「をかし」→「**おかし**」。なお古語「をかし」の意味は「**趣がある・おもしろい**」で、今の「おかしい（変だ）」とはちがう。
(3)	**いたり**	「ゐ」は「い」、「ゑ」は「え」に直す。「ゐたり」→「**いたり**」（＝座っていた）。
(4)	**はじ**	「ぢ」は「じ」、「づ」は「ず」に直す。「はぢ」→「**はじ**」。
(5)	**あわれ**	語中の「は」は「わ」。「あはれ」→「**あわれ**」。古語の「あはれ」は「**しみじみと心を動かされる**」という意味で、「かわいそう」だけではない。
(6)	**イ**	「いと」＝**とても・非常に**。程度を強める副詞。「いとうつくし」＝「とてもかわいらしい」。
(7)	**ア**	「あやし」＝**不思議だ・変だ**。「あやしがりて（＝不思議に思って）寄りて見るに」の形で有名。今の「怪しい（疑わしい）」の意味に寄せすぎないこと。
(8)	**イ**	「うつくし」＝**かわいらしい・いとおしい**。今の「美しい」とちがい、小さいものへの愛情を表す。小さなかぐや姫の様子を表す語。
(9)	**イ**	「けり」は**過去**（〜た）を表す助動詞。「ありけり」＝「あった・いた」。昔話の語り出しに使われる。

小計　18点

三　古典の基礎知識　（２点×６＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**イ**	『竹取物語』は**平安時代の初め（九世紀後半〜十世紀初め）**ごろに作られたと考えられている。作者は不明。
(2)	**随筆**	作者が見聞きしたことや感じたことを、自由な形式で書いた文章を**随筆**という。『徒然草』『枕草子』などがその代表。「漢字二字」の指定なので、「ずいひつ」など仮名書きは×。
(3)	**ウ**	『竹取物語』の作者は**わかっていない**（作者未詳）。紫式部は『源氏物語』、清少納言は『枕草子』、兼好法師は『徒然草』の作者。
(4)	**係り結び**	「ぞ・なむ・や・か・こそ」などの係助詞を受けて、文末が終止形以外（連体形・已然形）に変わるきまりを**係り結び**という。「**係り結び**」（四字）で正解（「かかりむすび」と仮名で書いたものも正答とする）。
(5)	**ア**	「矛盾」＝**前後のつじつまが合わないこと**。どんな盾も突き通す矛と、どんな矛も防ぐ盾を売った男の話から。皇子の長い苦労話も、職人の登場によって「矛盾」が明らかになる。
(6)	**ア**	『枕草子』は平安時代の随筆。イ『徒然草』は鎌倉時代末、ウ『万葉集』とエ『古事記』は奈良時代。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【歴史的仮名遣いを直す三つの手順】

①　**語頭以外**の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」（あはれ→あわれ／いふ→いう）。② 「**ゐ・ゑ・を**」→「い・え・お」（ゐたり→いたり／をかし→おかし）。③ 「**ぢ・づ**」→「じ・ず」（はぢ→はじ／よろづ→よろず）。※語頭の「は」はそのまま（はな→はな）。

四　「蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4点	**イ**	かぐや姫は求婚そのものを断りたいが、はっきり拒めない。そこで**手に入るはずのない品**を求めて、あきらめさせようとした。難題は「結婚を断るための口実」である。
(2) 4点	**ウ**	皇子は蓬莱へ行くふりをして姿を隠し、国内の**すぐれた職人（工匠）たちに命じて偽物の玉の枝を作らせた**。ア「自分で折り取った」は皇子の**作り話**の内容であって事実ではない。
(3) 6点	**（例）作り話を本当のことと信じさせ、偽物だと見破られないようにするため。（33字）**	「**本当のことだと信じさせる／信用させる**」（3点）＋「**偽物（うそ）だと気づかれないようにする**」（3点）の二点で採点。 「苦労したことを自慢したかったから」のように**自慢**だけにしたものは2点。「**〜ため。**」**の形**で書けていないものは－1点。二十五〜三十五字から外れたら－1点。
(4) 4点	**イ**	翁は皇子の長い苦労話をすっかり信じ、かぐや姫に結婚をすすめる。**翁が信じてしまうこと**が、後の露見をいっそうおもしろくしている。
(5) 5点	**（例）玉の枝を作った職人たちが代金を求めて現れたこと。（24字）**	「**職人（工匠）が現れた**」（3点）＋「**代金（賃金）を求めた・まだ払われていないと訴えた**」（2点）の二点で採点。 「翁が見抜いたこと」「かぐや姫が気づいたこと」は0点。「**〜こと。**」**の形**で書けていないものは－1点。二十〜三十字から外れたら－1点。
(6) 4点	**ア**	偽物を作らせ、長い作り話を平然と語る点に、**目的のために手段を選ばないずるさ**が表れている。身分の高さと中身のなさの落差も読みどころ。
(7) 6点	**（例）本物かと思い胸がつぶれる思いだったが、偽物とわかり、ほっとして喜んだ。（35字）**	「**玉の枝を見せられたときは、本物かと思って困り、心配した（胸がつぶれる思い）**」（3点）＋「**うそとわかって安心した・喜んだ**」（3点）の二点で採点。 「初めは結婚を断るつもりだった」など難題を出した動機を書いたものは、変化の「前」にあたらないので部分点のみ。**変化が前後二つ書けていない**ものは3点まで。三十〜四十字から外れたら－1点。

四　「蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(8) 4点	**イ**	当時の人々にとって蓬莱は、中国の伝説に出てくる**東の海のかなたにある不老不死の仙人の住む山（島）で、人の力ではたどり着けない遠い理想の地**であり、宝のイメージと結びついていた。だからこそ「蓬莱の玉の枝」は不可能な難題になる。
(9) 6点	**（例）長い苦労話を語らせた後に職人を登場させ、うそを一気に暴く展開にしている点。(37字)**	「作り話をくわしく（長々と）語らせる」（3点）＋「**職人の登場で一気にうそがくずれる・どんでん返しになる**」（3点）の二点で採点。「皇子がかわいそうだと思った」など**感想だけ**のものは0点。「翁が皇子の話を信じこんでいたのに、あっけなくうそがばれてしまうおかしさ。」(36字）も正答。三十〜四十字から外れたら－1点。
(10) 3点	**イ**	「今は昔」＝「**今からみれば昔のことだが**」。昔話・物語の語り出しの決まり文句で、「今となっては昔の話だが」と訳す。
(11) 4点	**ア・ウ・オ**	ア…皇子は蓬莱へ行くふりをして姿をかくし、職人に偽物を作らせた（○）。ウ…くらもちの皇子は身分の高い人物（○）。オ…皇子は玉の枝を持ってかぐや姫のもとへ来た（○）。イ…玉の枝は偽物で、かぐや姫は結婚していないので×。エ…かぐや姫は求婚を断るために難題を出しており、皇子を気に入ってはいないので×。**ア・ウ・オの三つそろって4点（完答）**。一つでも誤りをふくむものは0点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. 歴史的仮名遣いは**一字ずつ置きかえる**のが原則。「いふ」は「**いう**」。発音につられて「ゆう」と書く誤りが最も多い。
2. **語頭**の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は直さない。直すのは**語中・語尾**だけ（はな→はな／あはれ→あわれ)。
3. 古語は**今と意味がちがう**ものに注意。「うつくし」＝かわいらしい、「あやし」＝不思議だ、「をかし」＝趣がある、「いと」＝とても。
4. 『竹取物語』は**平安時代**の**日本最古の物語（作り物語)**。作者は不明。「かぐや姫」は作品名ではない。
5. 「**蓬莱**」は実在の場所ではなく、中国の伝説の**不老不死の地**。「行けない場所」だから難題になる、という理由づけまで理解する。
6. 皇子が語った航海の苦労話は、すべて**作り話**。本文に書かれていても「事実」とは限らない。**語り手の言葉と出来事を区別**すること。
7. 物語の工夫は「**ためて、くずす**」構造。長い自慢話 → 翁が信じる → 職人の登場で一気に露見、という**順序**でおさえる。

8. 記述は**問いの形**に合わせる。理由は「〜ため。」、きっかけは「〜こと。」、心情の変化は**前と後の二つ**を必ず書く。